

菱野団地再生計画（案）パブリックコメント手続 実施結果

1 意見募集期間 平成31年2月8日（金）から平成31年3月8日（金）まで

2 意見提出人数 8人

3 意見件数 21件

4 意見への対応

- | | |
|---------------------------------|-----|
| A 意見を踏まえて、案の修正をするもの | 0件 |
| B 意見の趣旨や内容を盛り込み済みであり、考え方を説明するもの | 6件 |
| C 今後の事業実施の参考とするもの | 15件 |
| D その他（本計画案に対する意見でないもの等） | 0件 |

5 意見及び市の考え方について

No	意見	市の考え方	対応
1	<p>多くの人が住む菱野団地の再生に立ちはだかる問題として自動車の路上違法駐車蔓延があると思います。</p> <p>団地の外周路全域にわたり数え切れない程の違法駐車が見受けられ、みんながやっているからなのか違反の意識が薄いようで当たり前のように堂々と駐車されています。本来路上は自動車の保管場所ではありません。私が初めてここを通った時にあまりの酷さに言葉を失いました。違法状態の放置は道路が狭くなり交通事故を招くほか治安悪化を招くことにつながると思います。このままだと菱野団地にマイナスイメージが定着してしまうのではないかと危惧しています。もっと本腰を入れて警察を巻き込んで取り締まりを強化すべきだと思います。新しく若い人を迎え入れるためにもマイナス要素は取り除くべきです。</p> <p>期待しています、よろしくお願い致します。</p>	<p>具体的なご意見をありがとうございます。路上駐車や駐車場環境につきましては、住民ワークショップや住民意向調査結果等からも課題の一つとなっています。</p> <p>課題に対して、「第3章 3. 再生に向けた20の取組方針 (2) 安全・安心に暮らせる環境づくり 取組方針6」において、外周道路や主要道路の駐車環境の改善を図ることとし、中・長期計画に位置付け、自治会や行政をはじめ多様な主体が連携しながら取り組んでいくこととしています。また、「第4章 2. 再生に向けた先行プロジェクト (1) センター地区整備プロジェクト」においても、センター地区における既存駐車場の駐車需要の把握を行い、民間活力等による効率的な駐車場の活用を推進することとしています。</p>	B
2	<p>私は瀬戸市に生まれたときからずっと住んでいます。暮らしに不自由を感じた事はありません。それだけいい街だとは思いますが、周りから見るとちょっと魅力がないようです。そこで、周りの魅力的な新しい街をみると住宅地にはそこそこ大きな公園がありその周りには商業施設がある事に気がきました。瀬戸にも大きな公園はありますが街の外れにあり多くの方は車で移動。また、そこから食事をとるなら車で30分というような形です。</p>	<p>具体的なご意見、ご提案をありがとうございます。</p> <p>菱野団地中央広場につきましては、「第3章 再生の基本的な考え方 2. 再生の基本方針 (1) センター地区を活用した交流拠点づくり」において、センター地区へのアクセス強化を図り、賑わいを創出することとしています。</p> <p>具体的には、「第4章 2. 再生に向けた先行プロジェクト (1) センター地区整備プロジェクト」において、菱野団地中央広場に集ま</p>	C

	<p>菱野団地には原山商店街、萩山商店街があります。その中心には大きな広場があり日当たりもまずまずです。ここに大きな公園、最新で安全な遊具とスポーツ（バスケットコートやフットサル）などができる場所があれば皆集まってくると思います。</p> <p>公園の対象は幼児から小学生高学年をイメージ。スポーツは中学生から大人まで。その周りの商店街には喫茶店などあったら年配の方もすごしやすいのではないのでしょうか。（この場所には小さい頃友達とよく遊んでいたのを思い出します。）商店街には駐車場もありますので遠くからも人が集まると思います。そうすれば商店街も賑わいます。そして街の良さが周りに浸透していきます。</p> <p>菱野団地は古い住宅地ではありますが再開発をするのであれば中途半端ではなく思い切って行って頂きたいです。是非周りからも憧れるような幅広い年齢に受け入れられる街にして頂きたいです。</p>	<p>る人々が休憩したり、語り合うことができる環境を整備することとしています。また、子どもからお年寄りまでの多世代が交流できる空間を設けるとともに、誰もが利用しやすく、利用したくなる中央広場への改修等に取り組んでいくこととしています。</p> <p>いただいたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただきます。</p>	
3	<p>たまたま新しく引っ越した場所で自治会の担当者となり、カタリバを知り途中から参加を始めました。菱野団地に住んで28年。まだまだ人の動きがあり、各三台に活気があった事を知っています。同じ団地内なのに自治会や住んでいる住民の感心度の差があることに、活動していてとても残念に思っています。私自身、自治会活動に凄く興味があったわけでもなく、たまたま面倒な班長が回ってきたという感覚で班長になり、あまりにも今現在住んでいる場所に興味がない方々がたくさんみえる事に驚き、自身もそれではダメだと思って参加するようになりました。なかなか大変な事だと思います。住んでいる方々が、もっと危機感を感じ、差し出された案にもっと興味を示し活動に参加しないと、何も変わらないと思います。三台、別行動の自治会ではなく、全てまとめた、菱野団地自治会とか？</p> <p>中央から発信する定期的なイベント活動や、地味な活動、例えば中央が畑や花壇であふれ、立ち寄りたくなる場所。常に何かしら活動していて、フラリと立ち寄った方が参加できる場所。固くなり過ぎず、ゆっくり緩やかな居場所。アクセクする日常から、穏やかに過ごせて、何だかいつも人が集まっている。そんな未来の菱野団地になればと思っています。</p> <p>私自身なにも出来ません。参加する事で、何か次に繋ぐ事が出来ればと思います。</p>	<p>具体的なお意見、ご提案をありがとうございます。また、住民ワークショップ「カタリバ」へのご参加ありがとうございます。</p> <p>菱野団地の住民が一つにまとまり、事業者、企業や行政等との協働で、菱野団地の魅力を高めるあらたなまちづくりに取り組み、誰もが住み続けたい・住みたくなる快適なまちを目指していくため、再生の理念に「みんなで作る、住みよいまち 菱野団地」を掲げました。</p> <p>今後は、再生に向けた先行プロジェクトとして「(1) センター地区整備プロジェクト」や「(2) エリアマネジメント団体プロジェクト」において、中央広場を誰もが気持ちよく利用できるような環境整備を推進するとともに、三台が共同で開催するイベントやまちづくり活動を企画し、センター地区の賑わいを創出していくこととしています。</p> <p>再生計画の推進にあたっては、住民の方々をはじめ多様な方々と協働してさまざまな取り組みを進めていけるよう、広く周知するとともに、一緒に取り組んでいただける方を広く募っていきます。</p> <p>いただいたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただきます。</p>	C
4	<p>歩道の整備について 健康維持のため、よく団地の外周を散歩し</p>	<p>具体的なお意見をありがとうございます。歩道等の社会基盤の更新につきましては、住</p>	C

	<p>ていますが、実際のところ、歩道がガタガタで歩きにくく、私でさえ転ばないかヒヤヒヤしながら常に足元を気にして歩いている状態です。</p> <p>そのためか、同様にウォーキングしている人の多くが、歩道ではなく車道を歩いている光景をよく目にしますが非常に危険です。私自身は散歩の際、景色に飽きないよう、原山台、萩山台、八幡台の外周を満遍なく歩いています、中でも萩山台の歩道のガタガタが顕著です。</p> <p>近所でもこの話題がよく挙がりますが、やはり高齢者の方々にとってこの歩道の段差の改善は急務のように感じます。なぜなら、現状の段差の多い歩道では、杖や歩行器を使っただけの歩行が物理的に難しく、そのことが外出を諦めたり躊躇させてしまっている実態があるためです。住民が自宅にこもりがちな環境と、活気あるまちづくりは対極にあるような気がします。歩道の段差が高齢者の方々の自宅に閉じこもる要因となってしまうまいよう、歩道の整備を進めることで、住民のみなさんの外出意欲を高めることも、団地の活性化につながる取り組みのひとつだと感じています。</p>	<p>民ワークショップや住民意向調査結果等からも課題の一つとなっています。</p> <p>課題に対して、「第3章 3. 再生に向けた20の取組方針 (2) 安全・安心に暮らせる環境づくり 取組方針8」において、誰もが安全に移動できるよう、回廊式の歩道橋などの整備・修繕に取り組んでいくこととしています。</p> <p>また、公共交通の観点からも、「(4) 高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり 取組方針18」において、既存交通と連携し、住民バスのサービス向上を図りながら、高齢者をはじめとする交通弱者の移動手段の確保を図ることとしています。</p>	
5	<p>健康増進施設の設置について</p> <p>「菱野団地住宅・公共施設再生計画の提案」にもあります、小学校跡地への総合スポーツ施設の建設を切に希望します。</p> <p>「65歳以上の回答者の55.6%は自宅にすることが多い」という、住民アンケートの調査結果を拝見させていただき、とても残念に思いましたし、将来、自分も同じようになってしまうのかも不安になりました。しかし、外出を阻んでいる要因を取り除く取り組みとともに、外出することへの何か有意義な目的や目標があれば、このような状況は変えられるのではないのでしょうか。</p> <p>高齢者になると、どうしても筋力の低下や運動能力の衰えによって、転倒や骨折の危険性が高まります。とはいえ、日常では転倒予防のための身体づくりはなかなか難しいものです。健康増進施設、とりわけ膝や腰に負担が少なく高い運動効果が得られる水中運動が可能な室内プールを団地の中心部に設置し、高齢者が筋力維持のための運動を無理なく続けられる環境整備が大切だと考えます。(最近、菱野団地のすぐ近くにスポーツジムがオープンしましたが、残念ながらプール施設はないようです)</p> <p>菱野団地の人口の40%近くを占める65歳以上の方々が生き活きと健康に暮らす姿こそ</p>	<p>具体的なご意見、ご提案をありがとうございます。また、名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科鈴木温研究室の学生さん達からいただいた「菱野団地再生に向けた提案」にご賛同いただきありがとうございます。</p> <p>「第3章 2. 再生の基本方針 「(4) 高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり」において、高齢になっても安心して生活できる交通環境等の整備や、生きがいや健康づくりにつながる活動を推進していくこととしています。</p> <p>具体的には、「第4章 2. 再生に向けた先行プロジェクト (2) エリアマネジメント団体プロジェクト」において、高齢者向けのサロン等の高齢者が気軽に集うことのできる居場所をつくるなど、福祉サービスの充実を図ることとしています。</p> <p>また、地域で活躍する高齢者（アクティブシニア層）等の活躍の場を提供することで、地域全体でお互いに支え合う仕組みづくりに取り組むこととしています。</p> <p>いただいたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただきます。</p>	C

	が、若い世代の人にとっても住み慣れたまちで安心して暮らせる「住みよいまち 菱野団地」につながるのだと思います。		
6	<p>住民バス路線の充実について</p> <p>多くの方々のご尽力により住民バスプロジェクトが始動し、運行により交通利便性は高くなりました。ただ、それはあくまで団地内での移動にとどまった話であり、今後、徐々に路線を充実させていくことが重要かと思えます。</p> <p>住民意向調査等の結果にも出ていますように、回答者の4割以上が「バス・電車の利用のしやすさ」に不満を持っており、菱野団地からの転居を考えている人の約20%が「公共交通の利便性」を理由に挙げているという現状は思っている以上に深刻です。</p> <p>例えば利用促進の一環として、みどりのまち病院や陶生病院行きの路線を増やしたり、また、運行範囲を少し広げ、尾張瀬戸駅や瀬戸口駅までの便を運行することで住民の方々の行動範囲の幅が一気に広がり、住民バスの利便性が格段に高まります。そういったことが、住民バスがすべての世代の人のニーズに合った魅力的な交通サービスになることにつながっていくのだと感じます。</p>	<p>具体的なご意見、ご提案をありがとうございます。</p> <p>住民バスは、菱野団地内における名鉄バスやタクシーへの乗り継ぎ、センター地区付近への買い物や通院、通所等への住民の移動手段を確保することを目的に、地域住民が主体となって、交通事業者、行政等との協働により運行しています。</p> <p>「第4章 2. 再生に向けた先行プロジェクト (3) 住民バスプロジェクト」においては、名鉄バスやタクシーなどの既存交通と連携して住民バスのサービス向上を図ることとしています。また、センター地区整備プロジェクトやエリアマネジメント団体プロジェクト等のまちづくりと連携した交通ネットワークを構築していくこととしています。</p> <p>いただいたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただきます。</p>	C
7	<p>私が一番重要だと感じるのは、菱野団地にお住まいの方同士が「顔を合わせる機会を増やす」ということで、それがまちの活気を取り戻す第一歩になるのだと思います。</p> <p>そのためには、外出を促す環境整備や動機づけが必要なのではないかと。市の予算も限られている中で、なかなか実現は難しいとは思いますが、運動施設や住民バスの利用を通じて、いろんな世代の人たちが交流する場面を、想像を広げながら書かさせていただきました。</p> <p>菱野団地のあらたなまちづくりに向けて日々取り組んでくださっている、検討委員会やワークショップ等関係者の方々に、心より御礼申し上げます。</p>	<p>具体的なご意見をありがとうございます。</p> <p>センター地区を活用した交流拠点づくりとして、「第4章2. 再生に向けた先行プロジェクト (1) センター地区整備プロジェクト」において、子どもから高齢者や外国人までの多様な人々が学んだり、遊んだり、語り合える交流スペース等を整備することとしています。</p> <p>加えて、「(2) エリアマネジメント団体プロジェクト」において、三台が一体となってセンター地区での賑わいを創出する取り組みを実施するとともに、親と子どもや高齢者などの多様な人々の居場所づくりを進めていくこととしています。</p>	C
8	SDGsに賛同し、SDGs未来都市宣言(菱野団地かもしくはこれを機会に瀬戸市として)をする。そして、菱野団地再生計画(案)にも反映してほしい。	菱野団地の住民がまとまり、事業者、企業や行政等との協働で、菱野団地の魅力を高めるあらたなまちづくりに取り組み、誰もが住み続けたい、住みたくなる快適なまちを目指すこととしています。この取り組みは、国のSDGsアクションプランに掲げる実施指針とも同じ方向性を持つと考えています。	B
9	愛知県に数か所しかない青少年センター(宿泊も可能なものが望ましい)を設立する。	具体的なご意見、ご提案をありがとうございます。	C

	<p>また、地域にユースワーカー（若者の育成などに取り組む専門スタッフ）がいるようにしてほしい。（全国的にも珍しい事例になると思います。）</p> <p>地方自治を担える若者の育成は急務だと思うからです。最初は、菱野団地内の公民館などからユースワーカーを数人配置することから始めてはどうでしょうか。将来的にできれば、瀬戸市全域への展開を求めます。</p>	<p>「第4章 2. 再生に向けた先行プロジェクト（2）エリアマネジメント団体プロジェクト」において、親と子ども、高齢者や外国人などの多様な人々の居場所づくりや相談しやすい窓口の設置等の支援体制の構築をはじめとした地域課題の解決に取り組むこととしています。</p> <p>また、市役所に設置されている地域若者サポートステーションや仕事・生活自立相談窓口等の既存の相談窓口や支援体制と連携・協力を図りながら取り組んでまいります。</p> <p>いただいたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただきます。</p>	
10	<p>子ども・若者総合相談・支援センター（例：名古屋市 子ども・若者 総合相談センターのような施設）を設立する。</p> <p>理由としては、昨今、ニート、ひきこもりなど、社会生活を営む上で困難を抱える子ども・若者の方が増え社会問題化しています。そこで、瀬戸市内にはない、子ども・若者総合相談・支援センターを新設し、相談にのり、その子ども・若者の状況に応じた支援機関へつなぐ機関が必要だと感じたからです。</p>		C
11	<p>幼年期～中年期（0歳～64歳ぐらいで高齢者・障がい者・子育てをしている親以外の社会福祉制度にあてはまらない人）の支援施設を新設する。もしくは、瀬戸市役所にある仕事・生活自立相談窓口（社会福祉課）を菱野団地の公民館などにも作る。（幼年期～中年期総合支援センター）</p> <p>理由としては、昨今、ニート、ひきこもりなど、社会生活を営む上で困難を抱える子ども・若者・40歳以上の大人も含む）の方が増え社会問題化しています。また、全年齢で高齢者・障がい者・子育てをしている親以外の社会福祉制度にあてはまらない（制度のはざまにいる）人も増加の一途をたどっています。</p> <p>（例）介護離職・ヤングケアラー問題などこれらの問題は、労働人口の減少や地域経営にも影響するため対策が必要だと考えます。</p> <p>これらは本来、瀬戸市の都市計画などに組み込まれる性格のものであると考えますが、最初は菱野団地内の公民館などから始めていただけることを求めます。必要なら、一緒に取り組みたいと考えます。よろしく申し上げます。</p>		C
12	<p>八幡台の団地外周をぐるっと回らなければ行きたい所に行けないのが不便です。</p> <p>階段や通路を作って頂けると有難いです。ブライト歯科や瀬戸西高校、瀬戸口駅に行くのにも便利です。よろしく願いいたします。</p>	<p>具体的にご意見、ご提案をありがとうございます。</p> <p>子どもや若者から高齢者の方まで誰もが住み続けたい・住みたくなる快適なまちを目指していくため、再生の理念に「みんなでつくる、住みよいまち 菱野団地」を掲げました。</p> <p>そして、高齢者がいきいきと暮らせるまちづくりとして、高齢になっても安心して生活</p>	C

		<p>できる交通環境等の整備に取り組むこととして しています。</p> <p>具体的には、「公共交通の維持・活性化」として、日常生活における団地内外への移動を確保、維持するため、バスやタクシー等の公共交通の利便性の向上を図ることとしています。</p> <p>なお、現在運行している住民バスは、各団地の外周道路上では交差点や横断歩道を除く安全な場所で乗降していただくことができます。例えば、原山小学校西側付近で乗降していただくと、階段を下りて緑町の商業施設等へお買い物に行くことができます。</p> <p>いただいたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただきます。</p>	
13	<p>菱野団地は、長く住んでおられるご年配の方がとても温かく子どもたちを見守ってくださいます。</p> <p>市役所の出張所、信用金庫、郵便局、子どもたちが安全に歩いておつかいに行けるスーパーもあり、中央広場も広く、車の乗り入れがないので安心して遊ばせることができます。近くに公園もたくさんあります。</p> <p>このように子育て世帯にとって暮らしやすい環境にあるにもかかわらず、子どもが少ないこと、また広場や商店街に今ひとつ活気がないことを残念に感じています。そんな中で、市が、専門家の方とも連携しながら、住民、各団体、企業等とひとつとなつて菱野団地のあらたなまちづくりに乗り出してくださったことに感謝しています。</p>	<p>具体的にご意見をありがとうございます。</p> <p>「第4章 2. 再生に向けた先行プロジェクト (2) エリアマネジメント団体プロジェクト」において、子育て世代の転入をはじめとする定住や交流を促進するため、ICTを活用したプロモーションにより、充実した子育て環境や豊かな自然環境などの菱野団地の魅力やまちづくりなどの情報発信に取り組むこととしています。</p>	B
14	<p>センター地区の機能強化について</p> <p>菱野第3住宅の10棟の1F、また、その付近にいくつか空き店舗があります。また、第二住宅の一室も自治会用の部屋となっておりますが、会議があるとき以外は使われていません。そのような場を、子育て支援や世代間交流の拠点として活用してはどうでしょうか。</p> <p>活動内容としては、就園前の親子が集って遊べるスペース、年配の方が憩えるサロン、放課後の子どもたちの居場所となる場、一緒に勉強できるスペース、子ども文庫、子ども食堂、地域を活性化するための話し合い、外国からの住民との交流、大人向けのセミナーなど。それらの場を分けるのではなく、ひとつの場所でシェアしながら行うことで、様々な交流が行われ、お互いのニーズを知りあうことができるし、地域のみんなで子どもたちやお年寄りを孤独にしない、守るという気持ちでつながりあえれば、防災、防犯意識も高まると思います。また、この地域は子どもの学</p>	<p>具体的にご意見、ご提案をありがとうございます。</p> <p>センター地区の機能強化については、「第3章 2. 再生の基本方針 (1) センター地区を活用した交流拠点づくり」において、センター地区へのアクセス強化を図り、賑わいを創出することとしています。</p> <p>具体的には、「第4章 2. 再生に向けた先行プロジェクト (1) センター地区整備プロジェクト (2) エリアマネジメント団体プロジェクト」において、センター地区の空き店舗等の既存ストックを活用した活動拠点を整備することとしています。</p> <p>実際に住民ワークショップ「カタリバ」におきまして、菱野第3住宅10棟の空き店舗を活動拠点として利用しました。</p> <p>活動拠点には子どもから高齢者や外国人までの多様な人々が、学んだり、遊んだり、語り合うことができる交流スペース等を整備し、エリアマネジメント団体プロジェクトの</p>	C

	<p>力が低いと言われている中で、一緒に学び合い高め合うことができるように、場と人材(ボランティアスタッフなど)があればサポートできると思います。</p> <p>菱野住宅は住宅供給公社の管轄なので、費用の面など課題もあると思いますが、例えば市が借り上げて一部有料レンタルスペースとして運営するとか、そのような子育て支援や地域活性化のための事業や活動に対して補助金を出すなどの支援があるといいと思います。</p> <p>そのように、年配の方の経験や知恵、スキル、活力を子どもたちに提供して頂き、子どもたちのエネルギーと愛を特にお一人暮らし等の年輩の方にお返しするという循環ができたらとても素敵なまちになると思います。</p>	<p>取り組みの場として活用することとしています。</p> <p>また、これらの取り組みについては、「みんなでつくる、住みよいまち 菱野団地」という理念のもと、住民の方とともに、事業者、企業や行政等が協働で取り組んでまいります。</p> <p>いただいたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただきます。</p>	
15	<p>小中一貫教育、適正配置について</p> <p>八幡小学校、原山小学校、萩山小学校はどれも少人数となっています。少人数の学校の良さもありますが、合併することで運営費も削減できます。また、子どもたちも多くの友達、先生方と学び合うことができ、日本語が難しい外国人の子どもたちもサポートを受けやすくなると思います。PTA活動も人数が増えれば個々の負担が減り活性化するのではないのでしょうか。通学距離の問題もありますが、検討の価値があると思います。</p>	<p>具体的なご意見、ご提案をありがとうございます。</p> <p>「第4章 3. 再生に向けた中長期計画 ③若い世代に住みたいと選ばれる団地づくり」において、小中一貫教育の実施や学校の適正配置の検討等により、子どもたちがのびのびと学ぶことができる環境づくりを進めることとしています。</p> <p>いただいたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただきます。</p>	C
16	<p>公園等の改修について</p> <p>八幡台、原山台、萩山台には小さな公園がたくさんあります。身近なことはよいのですが、わりとどこも整備が行き届いておらず、日中に子どもたちが遊んだり、年配の方が運動をされているのはほとんど見かけません。</p> <p>市の方で整備に手が足りないのであれば、その中でもいくつか絞って整備し、そこには水道や屋根つきのベンチを配備すると人が集う場所になるいいと思います。</p> <p>今の状態ではもったいないです。自治会の活動、または小中学生の課外授業の一環として、地域の環境整備に一役買う感じで公園のごみ拾いや草取りをしたり(すごいマンパワーです!)ボランティアを募るのもいいかと思います。また、今ボール遊びや花火ができる場所がほとんどないので、そのように整備された場所では保護者の見守りの元、許可されるといいなと思います。</p>	<p>具体的なご意見、ご提案をありがとうございます。</p> <p>「第4章 3. 再生に向けた中長期計画 ③若い世代に住みたいと選ばれる団地づくり」において、子どもたちがボール遊びのできる公園や広場の改修、子どもからお年寄りまで多様な世代が交流できる環境づくりを進めることとしています。</p> <p>また、「②安全・安心に暮らせる環境づくり」において、ちびっこ広場やセンター地区周辺の緑等の豊かな自然を活かした環境教育を実施することとしています。</p> <p>いただいたご意見は今後の事業実施の参考とします。</p>	C
17	<p>グローバルリーダーの発掘と育成について</p> <p>この地域はブラジル人、ペルー人、フィリピン人、インド人等様々な文化をルーツとする方がおられます。それを「問題」ととらえ</p>	<p>具体的なご意見、ご提案をありがとうございます。</p> <p>現在、菱野団地には約1,000人の外国籍の方が住まわれています。</p>	C

	<p>ず「豊かさ」として、多文化共生の楽しさが発信できるまちになるといいなと思います。住宅に住む際のマナー、ごみ出しのルール等が問題になることもあります。単に日本のマナー、ルールが理解できていないことが原因という場合も多いと思うので、それらを学ぶ場をしっかりと通訳付きで、地域の日本人（自治会役員やボランティアなど）も参加して意見交換しながら行くと改善できるのではと思います。</p> <p>今、小学校から英語教育が取り入れられていますが、瀬戸市でポルトガル語、スペイン語が話せる人は多くの人を援助することができます。子どもから大人まで、希望者対象としたポルトガル語講座等を地域で行ってはいかがでしょうか。また、近隣の高校や大学でポルトガル語を外国語として選択できるというかもしれません。</p> <p>例えばワールドワイド文化祭的な、身近な食や言語、音楽、ダンス、美術等の文化交流イベントなど、外国人の方と一緒に計画、実行できるといいなと思います。また、外国人の子ども達の学習支援の場があるといいです。</p>	<p>「第3章 2. 再生の基本方針 (5)多文化共生の地域づくり」として、多様な文化的背景をもった外国人居住者と日本人居住者がお互いを理解し、相互にその能力を活かして支え合える関係を築くこととしています。</p> <p>具体的には、「第4章 2. 再生に向けた先行プロジェクト (2) エリアマネジメント団体プロジェクト」において、外国人の相談窓口の設置により、子どもを持つ外国人等の生活支援とコミュニケーション支援の構築を図ることとしています。</p> <p>また、多文化共生の地域づくりとして、外国人居住者の地域参加を促し、地域住民の一員として主体的に活動できるよう、外国人と日本人の橋渡し役となるようなグローバルリーダーの発掘や育成を進めていきます。</p> <p>いただいたご意見は今後の事業実施の参考とします。</p>	
18	<p>まちづくり計画をする際の市民への周知方法について</p> <p>さまざまな年齢、国籍、状況にある人々でまちは構成されていることを踏まえ、また一人ひとりが生き生きと住み続けられるまちづくりを進めるのであれば、子どもたち、年配の方々、外国人、また障害のある人々にもわかりやすい周知方法が必要かと思います。パンフレットの文言はやや難しく感じました。</p> <p>例えば、地域の小中学校、特別支援学校、ブラジル人学校、デイサービス等に都市計画課の方々が出向いてこの再生計画の理念をわかりやすく伝え、アイデアやニーズの聞き取りを行ったり、さらに意見がある人はこのような方法で伝えることができますよ、と周知すると良いと思いました。</p> <p>そのようなさまざまな立場の住民の方のアイデアやニーズが、机上では考えつかない素敵なまちづくりのヒントになるのではと感じました。</p>	<p>具体的なご意見、ご提案をありがとうございます。</p> <p>菱野団地の取組みについてかわら版を作成し、団地内へ全戸配布するとともに、団地内の幼稚園・保育園や小学校、商店街、企業等のご協力を得て広く配布させていただきました。</p> <p>「第4章 2. 再生に向けた先行プロジェクト (2) エリアマネジメント団体プロジェクト」において、ICTを活用したプロモーションにより、SNSやホームページなどによる魅力発信とともに、ICTを活用した仕組みづくりにも取り組むこととしています。</p> <p>住民意向調査では、ふりがなをふった日本語のアンケート調査票に加えて、スペイン語、ポルトガル語、英語に翻訳した調査票を用いて実施しました。また、小学校の授業参観日に職員が出向いて、外国人の保護者の方等に直接聞き取り調査を行いました。</p> <p>いただいたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただきます。</p>	C
19	<p>再生計画とは少々驚きました。問題は、現在の菱野団地の一体どこが死んでいる、または死にかかっていると把握されましたか。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>菱野団地は入居開始から40年以上が経過し、急激に人口減少が進行し、高齢化率も市全体を大きく上回っており、多くの課題が存在しています。</p> <p>菱野団地の現状や住民ワークショップ、住</p>	B

		<p>民意向調査等の結果から、菱野団地の課題を「人口」、「住宅」、「商業」、「子育て」、「高齢者」など11のカテゴリーに分けて整理しています。</p>	
20	<p>買い物や交通の不便さでしたら、市内の他地区の方がもっと厳しいのではないですか。当地域が選ばれたのは住民の要請でしょうか、市当局の発想でしょうか。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>菱野団地の急激な人口減少や高齢化の状況に加え、三台それぞれに公共交通空白地域が存在し、住民の移動が確保されていない地域となっていました。</p> <p>そこで、住民が主体となり、交通事業者、行政等と協働で運行する住民バスの社会実験を平成29年7月から半年間実施し、平成30年8月から運行を再開しています。</p>	B
21	<p>各分野を横断したハード・ソフト両面の計画を立てる大規模な構えですが、それは予算配分を受ける要件でしょうか。現在各分野で動いている組織に屋上屋を架すことになるのではないのでしょうか。ただし、三台共通の課題についてはそれなりの組織は必要でしょうか。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>再生に向けた3カ年の短期計画として先行する具体的なプロジェクトと、先行プロジェクトをさらに発展させ中長期的に取り組んでいく中長期計画により、計画的に取り組んでいくこととしています。</p> <p>本計画の検討にあたっては、平成29年11月に菱野団地再生計画策定検討委員会を設立し、福祉、子育て、定住、交通、まちづくりなどの分野を横断したハード・ソフト両面の取組方針や具体的なプロジェクトの検討を進めてまいりました。今後は、計画に位置付けた取組みを推進するため、菱野団地再生計画推進協議会を設立し、取組みの実施状況や目標達成状況について評価・検証するとともに、社会情勢や住民のニーズの変化を把握し、計画の見直しを適切に行っていくこととしています。</p>	B